

氏名	相 谷 哲 朗
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第3894号
学位授与の日付	平成15年12月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	踵骨骨折モデルにおける距骨下関節内圧分布の動的解析
論文審査委員	教授 村上 宅郎 教授 平木 祥夫 教授 吉良 尚平

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

踵骨関節内骨折治療の原則は関節面の適合性を得ることであるが、踵骨関節内骨折においては、関節面の不適合性に加え踵骨体部の変形が関節内圧に影響を及ぼし臨床成績を左右すると考えられる。

今回、正常人体標本(N群)5肢における感圧紙およびタクトイルセンサーでの異なる肢位での距骨下関節内圧測定を行い、さらに人体骨折モデル(F群)5肢における骨折前後の距骨下関節内圧測定を行った。この結果、N群において、背屈位では荷重面積の増加と最大圧の低下が見られた。逆に底屈位では荷重面積の低下と、最大圧の増加が見られた。F群においては、底屈位と同様の関節面の傾斜を残す、すなわちBöhler角が減少している骨折後に最大圧ポイントの変位と最大圧の増加が見られた。

以上より、踵骨骨折においては、関節面の整復に加え踵骨の形そのものを整復することが重要であり、実際の踵骨関節内骨折においてはBöhler角の整復に努力するべきであると考えられた。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本論文は、正常人体標本(N群)5肢における感圧紙およびタクトイルセンサーでの異なる肢位での距骨下関節内測定を行い、さらに人体骨折モデル(F群)5肢における骨折前後の距骨下関節内測定を行うことにより、踵骨関節内骨折においては、関節面の不適合性に加え踵骨体部の変形が、関節内圧に影響を及ぼし、臨床成績を左右することについて研究したものである。

本研究の結果、踵骨骨折には、関節面の整復に加え踵骨の形そのものを整復することが重要であり、実際の踵骨関節内骨折においてはBöhler角の整復に努力するべきだと考えられた。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。